

主要国首脳会議 (G8サミット)は7日午後、地球温暖化問題について世界の温室効果ガス排出量を「2050年までに少なくとも半減させることを含むEU(欧州連合)、カナダおよび日本の決定を真剣に検討する」ことで合意した

サミット宣言の気候変動部分の骨子

- ・気候変動は真の脅威で、国際社会が温室効果ガス削減に断固たる行動をとることが緊急に必要
- ・「2050年までの地球規模での排出半減」を含む欧州連合、カナダ、日本による決定を真剣に検討
- ・将来の行動を交渉する際に、国連の気候に関するプロセスが適切な場であることを認識
- ・主要排出国が08年末までの新たな枠組み作りに具体的貢献を行うことが重要。それは、(ポスト京都議定書の)09年までの合意に貢献する。(日本による決定とは以下を指す)

(環境省ホームページから)

5月24日、安倍総理が地球温暖化問題について、次の3つの柱からなる戦略「美しい星50」を提案されました。

第1の柱は、「世界全体の排出量を現状に比して2050年までに半減する」という長期目標およびその実現に向けての「革新的技術」とそれを中核とする「低炭素社会作り」という**長期ビジョンの提唱です。**

第2の柱は、2013年以降の温暖化対策の国際的な枠組みの構築に向けた**3原則の提唱です。**

- ・第1の原則は、主要排出国が全て参加し、京都議定書を超え、世界全体での排出削減につながる
- ・第2の原則は、各国の事情に配慮した柔軟かつ多様性のある枠組みとすること
- ・第3の原則は、省エネなどの技術を活かし、環境保全と経済発展を両立することです。

第3の柱は、我が国として、京都議定書の目標達成を確実にするため、**国民運動を展開**するという取組みです。

今後、この提案を世界全体の取組みに発展させていくため、G8サミットを始めとする様々な場において訴えていきます。